

週日の説教

金 大烈 神父 2009年11月20日(金)

《聖堂の浄化より、心の浄化》

教会の歴史の中で信仰的な模範を見せた人々の代表は、誰よりも殉教者ではないかと思えます。

面白いのは、殉教された方々のほとんど、たぶん9割以上が、それほど学識がなく、神学的な知識も豊かではなかった、ということです。彼らが持っていたのは、純真な心、素朴な心でした。ほとんどの殉教者は、その心で、殉教の刀、冠を受け入れたのです。逆に、神学的に優れていると言われた人々が、間違いを起こしたことも歴史を振り返るとよく分かります。色々な誤謬や教会の分裂もいわゆる知識を持っている人々によって起こされました。

今日の福音(ルカ 19・45 48)では、イエス様が神殿を浄化する、きれいにする話しがされています。ここでは、ユダヤ教の会堂である「神殿」という名前が使われていますが、聖殿、聖堂と同じです。この、神殿、聖殿を浄化する物語を読んで、きれいな聖殿、きれいな聖堂、きれいな教会になるためには、その中にいる人々の心がきれいにならなければ、何の意味もないと思いました。

殉教された私たちの先祖は、純粋な心、素朴な心を持っていたから、信仰の実りを結んだのです。そのように考えれば、聖殿が浄化されるため、きれいになるため、目的どおり祈れる場所になるためには、まず私たちの心がきれいに浄化されなければならないと思います。

私たちはミサに与り、ご聖体をいただきます。ご聖体をいただくことは、「私の心を神様が泊まる場所にします。」という一つの約束ではないかと思えます。ですから、聖殿の浄化より心の浄化を優先するべきです。

皆様、今日の福音をとおして、どのくらい心をきれいにしようと頑張っているのかを考えてみましょう。もし心の中が否定的な感情で満たされていれば、いくら聖殿が浄化されても、私たちは聖殿とは逆のところにいることになるのではないのでしょうか。

結局、心から天国が始まるし、心から地獄も始まることをよくわきまえる必要があると思います。そして、心というものは、環境や条件とは関係ない、次元が違うところにあることも考えてください。人間の考え方、人間の秤とは全然違う心の平和や心の働きを感じられると思います。逆に、全てが備えられているのに、心がいつも不安に陥って、喜びがない生活をする姿も見つかるのではないかと思います。

皆様、何よりも信仰の条件はまず心から始まること、何よりもきれいな心、素朴な心、純粋な心であることを、このミサをとおしてもう一回考えてみましょう。

ありがとうございました。